

校長室から応援メッセージ(その6)

令和5年11月17日(金)

応援する気持ちは空回りしやすいけれど・・・

皆さん、こんにちは。朝晩の冷え込みに冬の到来が近いことが感じられます。この時期は体調の管理が本当に難しいのですが、勉強するにはよい季節かと思えます。淡々と机に向かっていきます、という皆さんのつぶやきが耳に入ってくることを望んでいます。淡々と机に向かっていても、そうつぶやきはしないでしょけれど・・・。

皆さんは今、「入試で合格点を!」という目標に向かって頑張っています。こうしてお話できる機会をいただいている私の目標は、皆さんの気持ちが高まるようなお話をすることです。しかし受験生を応援する言葉はありふれていて、同じような話の繰り返しになりそうで、私はいつも口ごもりがちです。

何かビシッと来る言葉はないものかと探しあぐね、でもそうかといって、仮に私がそういう話ができて、目標に向かう皆さんの意欲が高まったとしても、さて実際机に向かって勉強がスイスイ進むかという、そうとは限りません。勉強が進む、ここには意欲とは別の何かの関係していると思います。

勉強が進む状態とは、自分の持つ意欲や熱意に後押しされている以上に、対象となる世界が発するエネルギーに引き寄せられ、その渦にグルグル巻きこまれるようにいつの間にか熱中している、そういう構図になっていると思います。気分が乗らない時でもまず机の前に座って、その世界からのお誘いをじっと待ってみてください。英文を一つ作ってみる、古文単語を一つ口ずさんでみる、そうすればグルグルの渦は、ほらっ、すぐ目の前です。

入試の科目ごとに世界があり、その世界に身を任せた時、勝手に手が動き、口が動き、足や腰は動かなくてもいいですが、数時間があっという間に過ぎていきます。来る日も来る日もその繰り返し。いつの間にか入試の合格点につながっている、そういう道筋が確かにあります。そう信じて机に向かってください。

受験には成功も失敗ありません。頑張った分だけ成長した自分がいる、それだけです。大学に入学する際には、心の中に自分の好きな世界の存在を感じながら大学の門をくぐってほしいと思います。受験勉強は皆さんが大学で取り組む学問の入り口です。未来への窓口、とも言えます。このような形でお話するのは本日が最後となりました。今後は校長室から無言のメッセージを送ります。なんだか気味が悪い・・・、などと言わず、これまでと同様、仕方なく受け取ってください。